協会ニュース　行基菩薩				
	2010年(平成22年)	12月号(163号)	村田信彦	「行基菩薩」関連一口メモ＜1＞
	2011年(平成23年)	1月号(164号)	村田信彦	「行基菩薩」関連一口メモ＜2＞
	2011年(平成23年)	2月号(165号)	村田信彦	「行基菩薩」関連一口メモ＜3＞
	2011年(平成23年)	3月号(166号)	村田信彦	「行基菩薩」関連一口メモ＜4＞
	2011年(平成23年)	4月号(167号)	村田信彦	「行基菩薩」関連一口メモ＜5＞
	2012年(平成24年)	4月号(177号)	村田信彦	行基出家の環境
	2012年(平成24年)	3月号(178号)	田村栄一	行基さん高名な利水土木工事会社の創始者？
	2012年(平成24年)	3月号(178号)	谷崎悦子	公開講演会　行基と和泉國
	2012年(平成24年)	3月号(178号)	大野省吾	行基さんの話を聞いて
	2011年(平成24年)	4月号(179号)	村田信彦	伝説の中の行基
	2012年(平成25年)	8月号(196号)	村田信彦	行基から始まる堺の医療
	2023年(令和5年)	4月号(311号)	川辺葉積	行基さん

「行基菩薩」関連一口メモ<1>

［村田 信彦］

1)行基は天智7(668)年堺の家原で生まれ(父：高志才智、母:蜂田古爾比売)、天平21年2月2日、奈良・菅原寺(喜光寺)で亡くなり、生駒山麓で火葬のうえ、竹林寺に埋葬された。82歳であった。

2)奈良時代・・・和銅3(710)年平城京に遷る。延暦9(784)年長岡京に遷る。74年間。

3)49院の第一号は慶雲2(705)年河内国、陶邑(現在の泉北ニュータウン)に建てた大修恵院であり、現在の高倉(蔵)寺である。

4)行基と空海の二人には、100年ほどの時代差がある。従って直接のつながりはない。しかし、四国八十八ヶ所等では、信仰的なつながりがあるように見える。

四国八十八か所寺院は通常、真言宗の開祖・弘法大師空海が開創して寺寺を創建し、大師信仰のメッカとされている。しかし、高知県土佐市の竹林寺(真言宗智山派)をはじめとして、20ヶ寺以上の札所寺院の縁起には行基が本尊を造像したり、堂宇を建立したものを後世になって空海が再建した、とする記述がある。このことは行基信仰、あるいは行基伝承と大師信仰の結びつきを示唆している。

反面、二人には大きな違いもある。日本宗教史上で語り継がれている事柄は空海の方がはるかに多い。また、行基には一定の宗派や教団にこだわった、信仰や伝承は存在しない。

5)行基と法然にも直接のつながりはないが、二人の行状はよく似ている。法然(1133～1212)は平安末～鎌倉初期の末法の悪世と言われた時代に活躍した僧で、行基より400年も後の人である。

二人は共に時の政府から非難や迫害を受けている。その過程で、異なるのは行動に終始した行基に対して、法然は言葉(=念仏)で教化したことである。又、法然は浄土宗の創始者である。

「行基菩薩」関連一口メモ<2>

［村田 信彦］

6)温泉伝説:日本全国に行基が発見したとされている温泉が沢山ある。草津・湯河原・野沢・山中・山代等20ヶ所程ある。又、有馬温泉には「有馬の三恩人(仁西・秀吉・行基)」と言われる伝説がある。しかし、実際には行基は近畿地方から出ていない・・・・・とされている。

7) 大野寺土塔のすぐ近く(北西170m)で、土塔の瓦を焼いた窯が見つかっている。半地下式の平窯で、新と旧の2基が重なっていた。

8) 土塔から見つかった軒瓦に「神亀四年(727年・奈良時代初期)」銘の軒丸瓦が出土したことで、土塔の完成は行基の生存していた、奈良時代前半であることが判明した。

9) 土塔の発掘調査は平成9年から平成15年にかけて、堺市が行った。行基の時代(奈良時代)には、僧になるには、出家してまず寺に入り、沙弥(サミ)として修行することが慣行であった。こうした慣行をなくする為の先兵が行基である。

10)「知識」とは僧尼の勧めに応じて、仏事に結縁のため、財物や労力を提供し、その功徳にあずかろうとする者をいう。また、その動機・行為や寄進した資材・結成された団体のことを知識結という。「善知識」は善き知人・知己のことで、仏道修行に種々の便宜を与えてくれる人や教え導いてくれる指導者のことも言う。全体として「仏事の協力者」ともいえる

「行基菩薩」関連一口メモ<3>

［村田 信彦］

11)行基伝承のはじまり

「続日本紀」(六国史の 2 番目 697 年～791 年・文武天皇~桓武天皇に至る 95 年間の歴史を編年体で記した記録。行基死亡後約 50 年の 797 年に完成)の中に行基伝があり、次の通り記されている。『都鄙(トヒ=町や村)を周遊して衆生を教化す。道俗、彼を慕いて追従する者、動(ややも)すれば、千を以って数う。所行(ゆ)く処、和尚来るを聞けば、巷に居る人なく、争い来りて礼拝す。・・・時の人、号(なず)けて、行基菩薩という。』

12)法相宗(=唯識派:南都六宗の一つ。インドの唯識派を承け、唐の基(き)を祖とする。)日本では 653 年(白雉 4 年)に、道昭が入唐して、玄奘から受けたのが第一伝。奈良の興福寺・薬師寺を大本山とする。

*玄奘:三蔵法師のことで「大東西遊記(西遊記の元)」を表した。西遊記は三蔵法師が孫悟空、猪八戒、沙悟浄と共にさまざまの障害を克服して天竺に到り、大乗経典を得て帰る。という筋書き。

13)久米田寺と久米田池

岸和田(山側)の祭礼、ダンジリ祭りでは、行基が開創した龍臥山・隆池院久米田寺に、周辺のダンジリが集結する。これは、久米田寺の前に位置する久米田池を行基が掘削指導し、田畑の開拓や周辺住民の生活向上に寄与し、その他の遺徳も含めて顕彰する「行基まいり」と言われている行事である。

14)行基「河内七墓」

奈良時代に行基によって河内の国に作られた七か所の墓地で「行基菩薩七墓」ともいう。長瀬有馬、岩田、額田(以上東大阪市)、神之、垣内、恩智神宮司、植松晒(以上八尾市)の七か所の共同墓地をいう。

行基 37 歳の頃、薬師寺を出て民衆に布教を始めたころの河内一帯は天候不順で飢餓と病気で多くの死者が出たが、供養されずに野ざらし状態であった。このことを憂えた行基は、民衆と共に死体を集めて荼毘に付し、供養したのが起源で現在も共同墓地として存続している。この地域では、盆の 14 日に「七墓参り」をすると、迷惑をかけずに極楽往生ができると、言い伝えられている。特に、植松晒墓地には共同墓地由来の碑文と行基の墓がある。

15)行基式「日本地図」

①仁和寺蔵「日本図」嘉元 3 年(1305 年)

②「拾芥抄」収録「大日本国図」洞院公賢撰(1291～1320)他数点ある。

これらは、大和、山城、武蔵等の諸国が七道を描いて、団子状になっている。専門家(?)がいろいろな考証をしているが、墓誌、行基年表、続日本紀などの資料には行基の日本地図作成に関する記述はない。又、地図そのものも伝わっていない。行基は畿内を巡ってはいるが、そこから外には出ていない。しかし、行基の没後になってから、行基が各地を回ったことを拡大解釈して、天平 10 年に、国郡図を諸国に作らせたことに、行基が関与したとして、「大僧正行基が日本国図を描いた」という伝説が生まれた・・・・と、思われる。

「行基菩薩」関連一口メモ<4>

［村田 信彦］

16)「行基年譜」

行基没後(749)420 年余を経た安元元年(1175)に、泉高父(イズミタカフ)宿祢というひとによって著されたものである。「年譜」は主として、行基の年齢に従って、その行状の書かれた「年代記」と、異質の史料が挿入されたらしい「天平十三年記」から成っている。特に、年譜の方はその内容のすべてを事実として、受け取ることはできない。行基の社会事業を考察するには、十三年記を見るのが妥当とのことらしい。

17) 道昭(629～700)は行基の師と言われている飛鳥時代の元興寺の僧(官僧)である。河内国・古市の出身(渡来系の船氏が先祖)で、653 年入唐、玄奘三蔵に法相を学び、帰国後元興寺に禅院を建てた(禅宗として入ってくる以前)。晩年には諸国を巡って、架橋などの社会事業を行い、遺命により、日本で最初に火葬に付された。行基との交わりは明らかではないが、これらのことを見習ったことは確かと言える。

18)行基が「薬師寺の僧」と言われるわけ

「行基墓誌」と「続日本紀」に、行基は薬師寺の僧・・・・と、記されている。これは飛鳥から養老 2 年(718)現在地に移され(飛鳥にあった元薬師寺から)、同 6 年僧正・僧都・律師(全体を 僧綱という)の執務所となっていた。行基は、当寺で勉学し、後に大僧正東大寺には東大寺建立の中心的役割を果たした 4 人の御影(=肖像画)と 4 人を讃える褒め言葉としての讃が遺遣っている。

その 4 人とは

①聖武天皇 第 45 代天皇で東大寺建立の発願者。(ボダイセンナ) インドの僧 バラモン僧正の名

②菩提遷那

③良弁(ロウベン)日本華厳宗の第二祖 東大寺初代別当建立に尽力

④行基　知識を結集して建立に協力。行基の讃(20 句 80 字)の中に、文殊菩薩の生まれ変わりという意味の言葉である文殊化影(モンジュカエイ)とある。

22)行基と役行者(小角)

年譜では行基は 15 歳で出家してから、704 年(37 歳)まで山林で苦行したことになっている。また、役行者が伊豆に流されたのが 699 年だから共に山林修行の時期となる。そしてその場所は葛城山中である。

「行基菩薩」関連一口メモ＜5＞

［村田 信彦］

23）寺と院

行基は生涯で 49 院つくった・・・・ことになっている。それは決して寺ではない。寺とは、七堂伽藍が備わっていて、そこで僧が法会を行い、学問をするところである。

そして、院というのは直接的には貴族たちの大きい建物である。仏像を安置しているけれども、むしろ、宿泊するための建物・・・・ということができる。

24）聖武天皇と光明皇后と行基

聖武天皇が大仏建立の詔を出したのは、天平 15 年（743・行基 76 歳）10 月のことであった。

その時、天皇がいたのは紫香楽の宮で、平城京ではなかった。天皇は藤原広嗣の乱に伴って奈良を離れて、4 年半ほど各地を彷徨した。この時期の天皇は肉体ばかりでなく、魂も彷徨していたようである。政変・旱魃・飢饉・疫病・地震など、天平時代は惨憺たる時代であった。

天皇と光明皇后の間に生まれた男子は、1 歳にもならずに亡くなっている。人と国家、人と土地の絆も断たれたような時代であった。そんな中で天皇と皇后はそれらの絆を回復する手段として、大仏建立を構想した。そして、理想の協力者として思いついたのが、行基とその集団（知識）であった。社会事業に大きな力を発揮し、その周りに集まった民間の仏教信者たち・・・・であった。天皇はそんな人々の結集で大仏を作ることに意義を見出したのである。

すぐに行基を大僧正に任じ、天皇自ら行基から戒を受けて出家した・・・・という。（扶桑略記）又、天皇は菅原寺（現在の喜光寺）に行幸して行基に会ったとも言われている。聖歩天皇にとって、行基こそが失われた絆を結びうる存在であったのだと思われる。

25）行基建立寺院が「49 院」と、いわれることについて

「行基建立 49 院」というのは、天平 21 年（749）の『墓誌』には見えない。（因みに、『墓誌』は行基関係の第一級の史料である）又、「続日本紀」天平 21 年の条には「凡そ四十九院」と記され、宝亀 4 年（773）の勅にも「四十余処」と記されているが、明確に「四十九処」とは記されてはいない。

行基建立の寺院の数を 49 と言い出したのは、行基没後のことであり、行基が意図して 49 の寺（院）建てることにしたのではない。

兜率天（トソツテン）に住む彌勒の宮殿が 49 院から成ると説かれている（観弥勒上生兜率天経：カンミロクジョウショウトソツテンキョウ）。弥勒信仰が盛んになると、その四十九という数字が重んじられた。行基没後に行基に対する信仰が高まると、行基が建てた院の数を弥勒信仰で使われる 49 院を用いて呼ぶようになったと考えるのが妥当であろう。「四十九」という数字は「行基年表」に見えるが、実は、その年表には行基建立の寺を 53 ヶ寺あげている。

26）「行基菩薩行状絵伝」

行基の事績はなかば伝説化し、菩薩としての信仰の対象となり、この絵伝も掛副を示しながら、語る「絵解き」に使用されたものらしい。家原寺の快公（カイコウ）が制作を企画し、同弟子の行党が正和 5 年（1316）詞 3 巻を完成させた。その完成後間もなく、絵伝も描かれた。

① 行基の祖先とされる、漢の高祖の生涯
② 行基の出生から寺院の建立まで
③ 伝道から社会事業まで

という構成になっている。 ＜行基関連一口メモ 一先ず 完＞

行基出家の環境

［村田 信彦］

西琳寺

天智天皇が亡くなると(671)、「壬申の乱」が起こった。この乱を制したのは天武天皇で、天智は仏教に対しあまり関心を持たなかったが、天武は当時の各寺院に行幸したり、僧尼の統制に手を付けたりした。

諸寺には、土地などの占有を禁止し、天武 8 年(679)10 月の勅で、僧尼に対して「常に寺の家に住み、以て三宝(仏・法・僧)を護る」ことが本務である・・・と、強調した。天武 10 年(681)2 月、飛鳥浄御原令の編纂が始められ、天皇中心の国家体制が築かれ、僧尼や寺院は厳しい取り締まりの中におかれた。

行基が出家したのは、その翌 11 年、15 歳の時である。律令制では、一般の人は僧尼になれないのが原則であったし、出家しても自由な行動は認められなかった。行基は五位の国守を出している、渡来系の中級豪族、高志氏に生まれた。学問や仏教の文化に精通した「史(フミ)氏」の氏族的環境に育った。又、行基の師とされている道昭は史氏と生活、文化の関係の深い「船(フナ)氏」の出身で、そのような有力な僧侶を身近にもっていた。

船氏(氏寺：野中寺、羽曳野市野々上)と史氏(氏寺：西琳寺、羽曳野市古市)は隣同士で、行基の生誕地、家原寺も 2 氏の本貫地に近い。船氏も史氏もともに百済からの渡来人で、職掌も吏官としての知的な役割を勤め、両氏とも蘇我氏に統率されていた。

行基終焉の地　喜光寺

公開講演会「行基さん･･･高名な利水土木工事会社の創業者？

［田村 栄一］

行基さん（敢えて「行基菩薩」とは言わない）の家原寺、土塔、狭山池や久米田池等は知っていましたが、このたびの講演会で改めて私が感じたことを書いてみました。

行基さんは今風に言えば、高名な利水土木工事会社の創業者で、行基集団という工事に関わる企画設計技術者や工事の進捗を図る渉外の責任者、また資材を調達する一団などを率いて、池、水路、堤や橋梁等の利水土木工事を実施した人であります。そして後世、行基さんが造成したと伝えられる施設は、現代風雨に言えば、〇〇会社が造った××ダムとか、××橋等というように、〇〇の部分が行基と表現されるようなものであると思います。

次に、講演では、院と呼んでなぜ寺と言わなかったのかということでしたが、私は土木工事を施工するに当っては、管理する建物、即ち管理事務所や工事に携わる人々の宿泊所（俗にいう飯場)、準備作業をする建物、倉庫などが必要になってくる。そして、それらが後々、寺とか尼院に変化してきたのではないかと思いました。私の勝手な解釈ですが、行基さんが行基菩薩と言われるのは、後世(行基さんの晩年なのか没後なのかは知らず)の人々の口の端に生れたことで、行基さんの実行された行動（即ち、救済福祉事業であり、布施屋建設等だったということ）の結果（即ち、菩薩であられたということ）ではないかと思います。

私は歴史より現実に興味があります。この講演でその昔、行基さんが池や堤などを何故その場所に、どの様に、どれ程の期間で造られたのか、何故現在までその姿を留めていられるのかと言うことに関心がありました。そして、その様子が分かるかもと期待していましたが、その辺りの事は分かりませんでした。

現在があるのは、必ず過去が在っての上のことで、その過去を色々詮索してその裏側のみにこだわる事は専門的に歴史を探求する人には面白いかも知れませんが、一般人の観光と行基さんを結びつけようとすると、我々はどの様に振舞えばよいのか、「歴史的背景と現実の立地（姿）」即ち歴史的建造物と観光をどの様に結び付けるのがよいのかと考えた一日でした。

2012 年（平成 24 年）3 月号（178 号）

公開講演会「行基と和泉國」

［谷﨑 悦子］

吉田先生は、行基と行基の生きた時代の和泉の國について、分かり易くお話して下さいました。行基は、家原寺に生れ西暦 700 年代に活躍した僧侶です。家原寺は、智恵の文殊さんで知られ、受験シーズンの昨今はまさに「文殊さん」頼みのお願いごとがハンカチに書かれ、本堂の周りには十重二十重に貼り付けられていることでしょう。

行基の開基とする寺院は、全国 770 余に及んでいると言われているが、活躍したのは畿内なので行基開基は伝説である。畿内にある四十九院が行基の設置した寺院で、現在 9 ヶ寺が残っている。堺市には、神埼院（家原寺）、大修恵院（高倉寺）、花林院（八田寺）、大野寺がある。いずれも「院」であるのは、行基の建てた寺院が国家支配の在り方の中で「僧尼令」第五条の適用を避けるためである。

国家仏教と表現されたように、国家が仏教を保護し管理した。国家が大寺を造り、そこに僧尼が居住し、天皇、貴族層の災害消滅、病気平癒等の祈祷をする。僧尼には衣食住と不課税の特権が与えられる。僧尼というのは、国家の僕の地位で与えられたもの。行基は、これでは仏教本来の在り方ではない、多数の民衆の宗教とはならないと疑問を持つ。

行基は畿内に数多くの施設を建設した。布施屋、橋梁、溜池、用水路、運河、水門、波止場等の福祉事業である。これらには、多くの民衆が関わり「行基集団」を形成した。行基の生きた時代、用水路網、交通施設、農業施設などは、出家と在家の人々からなる多数の弟子たちとの協働作業であり、民衆の要望に応えた行基の特徴的な事業であった。同時に福祉事業である。釈迦の「福田」を拡大した福田思想である「福田行」は、佛になろうとする「菩薩」の行とされる。行基が「行基菩薩」と呼ばれていることに特に興味を惹かれて、吉田先生のお話を拝聴しました。有難うございました。

行基さんの話を聞いて

［大野 省吾 ］

観光ボランティアをやっている友人から勧められて、家内と二人で行基さんの講演会を聞きに行った。二人で同じ話を聞くと、いろいろ話題にもなって、少々の知ったかぶりもして間違ったことや偏った感想でも愛嬌の内だと思っていた。

日部神社

堺に移り住んで 30 余年もいると、知らない内に行基さんに触れることが多い。もう 20 年近くなるが、サラリーマンの通弊で、胃を切ったその養生の休みを利用して、泉州をあっちこっち廻ったことがある。偶然、古本屋で見つけた「泉州名所図会」（江戸時代の挿絵入り名所案内で、奥付を見ると寛政８（1796）年の出版の本を活字化したもの 柳原書店発行昭和 51 年刊）と山川出版の大阪府の歴史散歩、これも偶然知った和泉西国三十三所宝印帳とその掛軸をかかえ、家内とソフトバイクで廻った。目的は和泉西国三十三ヶ所と延喜式内社、それなりの古墳を見て廻ることにあった。

名所図会には行基さんがたびたび出てこられる。いくつか紹介しょう。

＊水間寺（第二十六番）･･･『本尊正観音 赤栴檀（しゃくせんだん）。長（みたけ）、四寸。天竺文殊菩薩の作。むかし、天平十六年、聖歩天皇、霊夢を感じ給い、行基に当山を見せしめ給ふに、滝の本より竜神顕れ、忽、老翁と化し語って曰、ここに、天竺霊鷲山の霊仏文殊の作り給う観世音の尊像あり。これを帝に上り、仏閣を営給はゝ、国家長久ならんと告く。行基、即、此よしを奏し、霊場を建営し給う。・・・』

＊木積(こつみ)観音(孝恩寺第二十五番） ・・・『木積村にあり。行基菩薩、畿内に四十九院を建給う時、その木材を和泉国木嶋の杣山より出す。当境は其木を積置く所也。此ゆえに、木積といふ。観音寺に、行基みつから作り給ふ観世音を安す。・・・』

このお寺には鎌倉時代後期の素晴らしい観音堂（国宝）があり、釘を使っていないので「釘無堂」と通称されている。また平安時代の 19 体の国重文の御仏がおられる。自由に拝んで下さいと鍵を貸して頂いた。昔のことだから。

＊今も地名で残る大庭寺、大平寺は『大庭にあり。本尊、観世音。開基、行基。今、真言宗の僧寺職す』『大平寺村にあり。初めは行基菩薩開創して、諸堂巍巍（ぎゝ）たり．荒廃して、旧礎存せり。今、真言宗の僧寺職す』 大平寺の方は、寺は存在しており、和泉西国三十三ヶ所の第六番来迎時の寺務所となっていて、訪れたときに延喜式内社の鴨田神社が桜井神社に合祀された後の土地に曰くがあったなど昔話もして頂き、お菓子のご馳走にもなった。

＊日部神社･･･『草部村にあり。延喜式内也。日部の祖神を祭る。今、牛頭天王として産沙神（うぶすながみ）とす』この神社は本殿と石燈篭が国の重要文化財になっている。

この神社の裏に行興寺がある。･･･『草部村にあり。初めは、行基菩薩の開創にして、日部神社の神宮寺なり。兵乱に荒廃して、諸堂の址、田端の字（あざな）となる』。図会には日部神社と行興寺の境内俯瞰図を載せていて、重文の石燈篭について『牛頭天王の社内にあり。相伝ﾌ楠正儀（まさのり）の

寄付也。柱の銘云、和泉国大鳥郡草部上、牛頭天王燈炉也。正平二十二年巳酉卯月八日云云。「ハンドブック堺の文化財によると二十四年（1369）年」。胴に降龍、同じく後に昇龍、四隅に四天王の像を鐫（のみ）す。当国の名器也。』

また、最近の行基さんとの触れ合いは、泉北高速のハイキングマップで行基コースを仲間と歩いた。津久野駅から家原寺、行基の母のゆかりの華林寺、行基が作ったと云われている農業用ため池の水賀池を経て土塔まで。新しく復元された土塔に感嘆。後の飲み会もまた楽しみとして。
友人は突然講演会の感想を書けと云う。慌ててレジメを読み直した。図会に載る行基開創伝承は先生が言われているように弟子らが開いた寺院なのだろうし、水間寺の話は日本霊異記に載る霊異神験を使った説話と同様なのだろう。行基の四十九院について今から約 200 年前の図会には木積観音の記事にもそうだし久米田寺の記事には『行基開基四十九院の中也』とあるので広く知られていたのだろう。

今回の講演を聞いていて、かなりの時間を割いて小乗仏教と大乗仏教の違いを話されたのを、レジメを読み直して、アレッと思った。聞いている時はその違いから大乗仏教の考え方へ、人を助けること、福田思想とかの流れが、その時はすっと頭に入った気になった。講演会の話は大体すぐ忘れるのだが、今回は項を追った丁寧なレジメを作って頂いたお陰で、行基の生きた時代とその数々の仏教福祉事業、行基をめぐる信仰集団と知識へ等々を再認識させて頂いている。

行基の池を掘る、溝を掘る等々の行為は、一般には行基の社会事業として捉えられているように聞いている。社会事業という考え方は近代のものの筈で、ちょっと違和感を持っていたが、先生の言われるように、信仰による一方的な喜捨行為だけでなく、参加する集団、農民、商業者、運送業者等も応分の利益を得ていたと云うことは当然といえば当然なのだが、行基はそれらを蔑視しない、「労働に基づく利益の確保・資産の蓄積はなんらやましいこと賤しいことではないということが含まれていた」と現実的な思想を奈良時代の行基がもっていたと先生が考えておられるのに新鮮な感動すら覚えた。

家原寺

華林寺

水賀池

土塔

伝説の中の行基

［村田 信彦］

１．高石の大工

高志（行基の父方の氏）の地であった高石には、大工の集落があって、古くは大工村と呼ばれていた。この村は行基にひきいられた人々の子孫で、江戸時代の元禄の頃に千歯扱ぎ（せんばこぎ）という稲扱ぎの機械を発明したのは、この村の大工・宇兵衛であったという。.

家原寺　本堂

２．須恵器

須恵器を行基焼きということがある。しかし、須恵器は行基より古い時代に造られたものである。だから、この地域に伝道に行ったことか、須恵器製造職人の救済のための施設や寺（高倉寺のような）を造った為についた呼名だろう

また、十二支をかたどった、土器の鈴が行基の生家近くで作られている。これが「お鈴の宮」と一般的に呼ばれている蜂田神社である。行基から伝えられたものと言われている。

３．井戸

行基が掘った井戸というのはとても多い。潮風呂もあるが、向泉寺の閼伽井、鳳の行基清水、八田荘の薬井、七道の千日井、深井清水等いずれも病気に効く薬水であるという。

４．女性救済

「日本霊異記」には、女性を蛇から救った話が、2、3 出ている。官寺（国が正式に認めた僧侶）の僧は女性を相手にはしなかった。行基は尼寺まで作って、女性の救済に尽力している。

行基から始まる堺の医療

［村田 信彦］

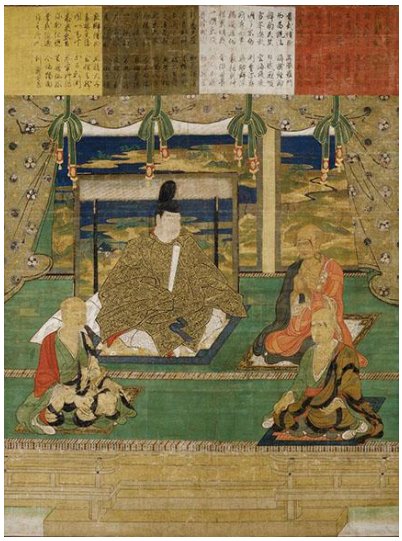
少し古い記録になるが、昭和 45 年ごろの堺には、370 軒の開業医と 23 の病院があった。人口比率としては多い方ではないが、中都市とすれば相当多い数であった。堺の医療は、奈良時代に始まる。

行基の母親は、薬師姫と言い、医薬の知識を持っていた。行基もそれを受け継ぎ、民衆教化のかたわら、医療をもって人々を救った。塩風呂や薬井戸がその名残である。そして堺の医療は室町時代に急速に発展している。遣明貿易で医薬品や学問が入って来たので各地から僧侶や知識人が集まり、これを修得していった。堺の北端に悲田院(北十万)を開いたのは、十万上人だし、展薬頭を努めた半井利長は、晩年には堺に住み、その子孫は皆堺に住み、名医として天下に名を挙げた。また、医療の普及に大きく貢献したのは、医書大全という中国の書物を 9 冊の本に翻訳した阿佐井野宇瑞である。彼は婦人科医としても有名であったが、他に天文版論語等の書物を出版している。桃山時代には、竹田薬師院の歴代の医師が半井家と共に堺の医療をつかさどった。以後、明治 7 年 5 月、妙國寺境内に医学校が開設され、同所に診療所を開設した。この学校は明治 9 年に公立堺県病院となった。すぐ後で廃校になったが、明治早々に堺に医学校が出来て居たのである。

行基さん

【川辺 葉積】

奈良東大寺二月堂の修二会《お水取り》は 3 月 1 日から 14 日が本行。15 日に満行します。この修二会の期間中、亡くなられた方々のお名前を読み上げて菩提を弔うという儀式があります。一番目は東大寺を建てた聖武天皇、二番目が天皇の母である皇太后宮《藤原宮子》、三番目は光明皇后、そして四番目に読み上げられるのが大仏建立に尽力した行基菩薩です。東大寺開山の良弁は八番目に読みあげられます。東大寺創建に関わる四人を描く「四聖御影(ししょうみえ)」にも聖武天皇、インドから来られた開眼師の菩提僊那(ぼだいせんな)、良弁、行基が登場します。



四聖御影
（左上・聖武天皇 右上・菩提僊那）
（左下・良弁　右下・行基　）

みなさんが目にする行基さんは剃髪した老僧の姿だと思いますが、中区八田寺(はんだいじ)町の華林寺《蜂田寺(はちたでら)・花林寺(かりんじ)》には鎌倉時代に描かれた 13 歳の姿が伝わっています。華林寺では毎年、行基さんの命日の旧暦 2 月 2 日に近い日曜日に「御影供法会(みえくほうえ)」を行います。今年は 2 月 19 日で、法要時には 13 歳の行基さんが描かれたお軸が飾られます。現在はレプリカですが本物の「絹本著色　行基菩薩十三歳像」は奈良国立博物館に寄託されていて 2018 年に堺市博物館で里帰り展示され、翌年堺市指定有形文化財になりました。出家は 15 歳なので 13 歳像は垂髪で袈裟を着けた少年の姿です。なんとも気品のある美しいお顔です。

行基 13 歳像

現在住職不在の華林寺ですが檀家の役員さんたちに守られて維持されています。寺の門には「行基菩薩御母堂生家」と書かれています。行基さんのお母様は蜂田古爾比売(はちたのこにひめ)。近くにある蜂田神社(お鈴の宮)ゆかりの豪族蜂田連(はちたのむらじ)の一族で蜂田首虎身(はちたのおびととらみ)の娘です。平安時代の華林寺は一切経を備えた大きな寺院でした。天野山金剛寺の一切経の一部には華林寺の書写であるという記録も残っています。寺から約 2 ㎞南東にある中区原池公園体育館がある住所は八田寺町です。今はこじんまりした八田寺町ですが、昔はこの辺りまで八田寺が支配していたのかもしれません。寺は大坂冬の陣の兵火で焼失後 1679 年に再興され現在に至ります。お寺では珍しい二重屋根です。行基さんが入寂した奈良市菅原町の喜光寺では 3 月 2 日に「行基會大祭」があります。堺の華林寺でも毎年「御影供法会」が続くことを願っています。

偉大な行基さんが堺で生まれたということを、たくさんの人に知ってもらいたいです。